

平成29年度 全国学力・学習状況調査

結果から明らかになった岐阜県全体の成果と課題

岐阜県教育委員会では、これまでの全国調査や県学習状況調査の結果を踏まえて、成果や課題についてまとめ、提言してきました。それらの事項を今回の調査問題と重ね、改めて県全体の成果と課題について整理しました。自校の傾向と照らし合わせて、指導改善の内容を検討することが大切です。



国語

I 経年でみて、成果といえること

具体的事項	設問番号	出題の趣旨	正答率	授業アイデア例
俳句の情景を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること。(読むこと 5, 6年エ)	小A 4一	俳句の情景を捉える。	83.3%	—
文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉えること。(読むこと 1年イ)	中A 4一	文章の要旨を捉える。	83.1%	—
目的や状況に応じて、資料を効果的に活用して話すこと。(話すこと・聞くこと 2年ウ)	中A 2一	目的に応じて資料を効果的に活用して話す。	89.5%	—

II これまで課題としてきたことのうち、改善の兆しがみられること

具体的事項	設問番号	出題の趣旨	正答率	授業アイデア例
自分の考えを明確に表現するために、文章全体の構成の効果を考えること。(書くこと 5, 6年イ)	小B 2一	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える。	71.3%	—
引用して、自分の考えが伝わるように書くこと。(書くこと 5, 6年エ)	小B 2二	目的や意図に応じ、引用して書く。	72.3%	—
言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、視点を定めて読むこと。(読むこと 1年ウ)	中A 6一	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する。	77.0%	—

III 経年でみて、依然、課題として捉えられること

具体的事項	設問番号	出題の趣旨	正答率	授業アイデア例
文の意味を理解したうえで、漢字のもつ意味を考えながら文や文章の中で使うこと。(伝国 5, 6年(1)ウ(ア))	小A 7(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。((1)対象)	34.6%	その①
目的や意図に応じて複数の内容を関係付けながら、必要な内容を整理して書くこと。(書くこと 5, 6, 年ウ)	小B 2三	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。	39.0%	—
事象や行為などを表す語句が多く存在することに気付き、実際の言語活動においてどのように活用するか考えること。(伝国 1年(1)イ(ウ))	中A 9五	事象や行為などを表す多様な語句について理解する。	33.8%	その③
表現の特徴について、自分の考えをもつこと。(読むこと 1年エ)	中B 1三	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く。	44.0%	その④

IV 本年度、新たに課題として捉えられること

具体的事項	設問番号	出題の趣旨	正答率	授業アイデア例
物語を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。(読むこと 5, 6年オ)	小B 3二	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える。	29.5%	その②
漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。(伝国 1年(2)イ)	中A 9六 1	楷書と行書との違いを理解する。	50.0%	—

算数・数学

I 経年でみて、成果といえること

具体的事項	設問番号	出題の趣旨	正答率	授業アイデア例
整数や整式の基礎的・基本的な計算をすること。	小A ②(1)	整数の乗法の計算をすることができる。	85.2%	—
	中A ②(3)	整式の加法と減法の計算ができる。	78.7%	—
資料から必要な情報を適切に読み取ること。	中B ⑤(1)	資料から必要な情報を適切に読み取ることができる。	80.2%	—

II これまで課題としてきたことのうち、改善の兆しが見られること

具体的事項	設問番号	出題の趣旨	正答率(全国差)	授業アイデア例
小数の乗法の場面において、二つの数量の関係を表すこと。	小A ①(2)	数量の関係を数直線に表すことができる。	73.8%	—
言葉と図、図と図を関連付けて、図形の意味の理解を深めること。	中A ⑤(3)	見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取ることができる。	81.1%	—
簡単な一元一次方程式を解くこと。	中A ③(1)	簡単な一元一次方程式を解くことができる。	84.0%	—

III 経年でみて、依然、課題として捉えられること

具体的事項	設問番号	出題の趣旨	正答率(全国差)	授業アイデア例
数学的に表現された結果を事象に即して解釈したり、説明したりすること。	小B ③(2)	示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することができる。	19.7%	その②
目的を明らかにして、問題の解決に向けてより適切な表やグラフを使うこと。	小B ④(2)	割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる。	32.0%	—
数学の用語・記号について、意味や内容を理解し、用いることのよさを把握すること。	中A ⑩⑭	⑩(3)比例定数の意味を理解している。	32.2%	—
		⑭(1)範囲の意味を理解している。	23.5%	

IV 本年度、新たに課題として捉えられること

具体的事項	設問番号	出題の趣旨	正答率(全国差)	授業アイデア例
図形を構成する活動を通して、図形の性質を理解すること。	小A ⑥	正五角形は五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している。	61.1%	その①
	中A ⑥	空間における直線と平面の平行について理解している。	63.5%	
示された方法から数学的な意味を見だし、条件の異なる場面に適用して判断すること。	小B ②(2)	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる。	25.9%	—
二つの図形の関係を移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明すること。	中B ①(2)	事象の特徴を的確に捉え、数学的に説明することができる。	12.5%	その③
ある条件の下で成り立つ性質や関係に着目し、図形を考察すること。	中B ④(3)	証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができる。	44.2%	—

自校の結果に照らし合わせながら、平成29年8月に国立教育政策研究所から各学校に送付された「報告書」を見てみましょう。その際、**問題に込められた趣旨を理解する**とともに、例えば、**「正答率の低い問題」、「予想以上に正答率が低い問題」、「県の正答率との差が大きい問題」等に****着目し**、各問題にある「学習指導に当たって」を参照すると、指導改善のポイントが見えてきます。

